

## 母親達の育児情報の受け止め方に関する研究

(分担研究：育児情報の総合質問紙調査結果より保健所・病院について)

小林祐子<sup>1)</sup> 狩野順子<sup>2)</sup>

【要約】今日、母親達を取り巻く育児情報の氾濫は、少子化・核家族化という育児環境条件の中で大きな影響力を母親達に及ぼしている。地域で母子保健に携わる育児情報発信源としての、保健所・病院からの育児情報がどのように母親達に受け止められているか、その実態を把握するために、総合質問紙調査を実施した中より結果を分析した。今回は、東京都板橋区の回収分で保健所と病院の利用して役にたった内容と理由、与えられた情報で不安になった経験とその理由、また不安解消のためどのようなことをしたかを分析した。

見出し語：育児情報、母子保健、総合質問紙調査、東京都板橋区、保健所と病院

### I. 調査目的

母親を取り巻く育児情報の中で、保健所・病院の与える情報を母親達がどう受け止めたかの実態を分析し、今後どのように対応したらよりよい母子保健に寄与できるかを検討する。

### II. 調査方法

健診時や育児相談日に配布し、子どもの城に任意郵送回収法

対象：0～3歳児をもつ母親

地域：東京都板橋区

期間：1993年10～11月

配布数：2,000通 回収数：501通

---

1)板橋区板橋保健所 2)板橋区志村保健所

### Ⅲ. 研究結果

#### 1. 調査対象者の属性

月齢は保健所の4か月健診、1歳6か月歯科健診、3歳児健診に配布した関係で、健診該当年齢がピークになっている。対象者の年齢階層別出生順位は、図1である。

#### 2. 保健所、病院（診療所）を利用し、役立った内容の分析

##### 1) 利用して役に立った内容

保健所を利用して役に立った人は、501人中で373人（表1）。その中で一番役に立った内容の内訳は、乳幼児健診（99人）、母親学級（87人）新生児訪問（62人）がベスト3である。

4か月、1歳半、3歳1か月児の各年齢とも同じ傾向を示した。

この数を板橋区の保健所利用者数（表2）でみると、新生児訪問、母親学級が乳幼児健診に比較して役に立っている割合が非常に高い。

病院（診療所）を利用して役に立った人は、501人中318人（表3）。この中で一番役に立った内容の内訳は、子どもの診察や治療（106人）、子どもの健診（71人）、時間外の救急治療（66人）がベスト3である。

##### 2) 利用して役に立った理由

保健所利用者の最初のピークである4か月について、主な内容をまとめた。

##### ①保健所の「乳幼児健診」 — 4か月28人 —

- \*健診は大切だから受けた 6
- \*発育の状況が判る 6
- \*悩んでいたこと、不安なことが解決した心構えができた 5
- \*予防接種をしてもらった 4

\*無料である 3

\*小児科医、助産婦の話が聞けた 2

\*健診の時、母親が不安にならぬように気をつけてくれた・受け答えがとても親切 2

##### ②保健所の「母親学級」 — 4か月20人 —

\*同じ悩み、心配ごとについて情報交換し、友人ができた 11

\*不安が解消され、安心した・心構えができた 4

\*いろいろ教えてもらった 3

\*初産だったので 1

\*理由に記載無し 1

##### ③保健所の「新生児訪問」 — 4か月16人 —

\*1対1で直接話が聞ける・一人で、又は初めての育児で不安だったので安心した 10

\*いろいろ聞ける 教えてくれる 4

\*母乳の出を良くする方法を教えてくれた 1

\*実際に家の様子を見てもらえる 1

##### ④病院の「子どもの診察や治療」 — 4か月22人 —

\*病気の時診察してもらったから 11

\*医師にみてもらって安心する 6

\*適切な指示を受けられる 3

\*治療のみでなく育児の相談もできる 1

\*専門医がいる 1

##### ⑤病院の「子どもの健診」 — 4か月12人 —

\*子どもが順調に育っているかどうか、健診を受けると安心する 心配ごとがそのつど聞ける 9

\*行くだけで安心する 2

\*健診があったから 1

#### 3. 保健所、病院（診療所）の育児情報で不安になった内容の比較分析結果

1) 与えられた情報で不安になった経験

保健所 : 63人 (12.6%)

病院(診療所) : 55人 (11.1%)

該当児年齢の内訳は表4である。ピークの4か月児(保健所17.5%、病院18.2%)、1歳6か月児(保健所23.8%、病院20%)、3歳1か月児(保健所15.9%、病院10.9%)で、1歳6か月が1番多かった。

2) 不安になった内容と解消方法

具体的内容では、圧倒的に職員の接遇問題が多く先生、保健婦、栄養士等の発言内容で(厳しい、軽くあしらわれた、勉強不足、不親切、吐られた、驚かされた)、専門家によって指導や発言内容がことなる、指導内容が厳しく理想的すぎるなど情報の伝え方が不安を与える原因になっていることが明らかになった。

ピークの4か月児、1歳6か月児、3歳1か月児に関しては、4か月児(保健所7/11 63.6%、病院10/10 100%)、1歳6か月児(保健所11/15 73.3%、病院9/11 81.8%)、3歳1か月児(保健所9/10 90%、病院3/6 50%)であった(表5)。

ここでは「不安の内容と解消方法」について、いくつか具体的にあげてみた。

<4か月児保健所例>

不安内容: 健診でよくないと連発された。

解消方法: なし

不安内容: 新生児訪問で、あせもや湿疹のことできつい言い方で注意された。

解消方法: 子育て経験者に相談し、そんなに気にすることはないとわれ安心。産後は不安定な気持ちの時もあるので、前向きな話をしてほしかった。

不安内容: 太りすぎといわれた。

解消方法: 特になにもしていない。

不安内容: プグラムどおりの生活ができてない。

解消方法: ひらきなおった。私は私なりの生活。

不安内容: アレルギーの質問に何も答えてくれない。

解消方法: 友人や母親に相談した。

不安内容: 適切な判断をしてほしかったが、うやむやにされてしまった。

解消方法: 病院に行った。

不安内容: 新生児訪問で、まだ1か月もたっていないのに、「3から4時間ぐらいなら泣かせておいてもいいから、おっぱいはあげないように。」

解消方法: 2から3日したが泣きっぱなしなので、欲しがるときあげた。

<4か月児病院例>

不安内容: 妊娠中、子どもの大きさをたずねたら教えられないといわれ、人と違うのかと不安になった。

解消方法: 通院仲間に聞いてみた。

不安内容: 子どもの頭の形が悪いと、看護婦に言われ、うつ伏せ寝にしろと言われた。

解消方法: 突然死などの問題があり怖いので、頭の向きや、ドーナツまくらで工夫した

不安内容: 髪の毛が立っているのは、カルシウム不足だと言われた。

解消方法: どのように補うかわからなかった。

不安内容: 1か月健診のとき「小さいわね」と言われた。

解消方法: 母子手帳で確認したら小さくなかった

不安内容: 先生によって言うことがちがう。

解消方法：解消されていない。気にしないようにしている。

不安内容：ぞんざいな病院があり、1度診てもらっただけで通院をやめた。

解消方法：母の紹介の病院へ変わった。

不安内容：妊娠中に薬を飲んだことが子どもに影響を及ぼすのを聞いてみたら、生まれてこないとわからないと言われ、ショックをうけてしまった。

解消方法：様子をみるほかなかった。

#### <1歳6か月児保健所>

不安内容：ゆびしゃぶり、つめかみ、おねしょについて相談したが、あたりまえのことしか言ってくれない。

解消方法：何もしない。

不安内容：保健所は一般的なことしか言わないので、近くて便利だが気休めだけ。

解決方法：なし

不安内容：子どもはそれぞれ成長や性格など違うと思うが、育児マニュアルに沿った、育児方法を教えてくれるので、参考になることはあるが、そこまで優等生な育児はできない。

解消方法：無理のない育児を考えながらしている

不安内容：6か月の時、「この子は太り過ぎだから、ミルクを止めて離乳食に切り換えなさい。」とずけずけと言われショックでした。

解消方法：太りすぎていると思っていなかったの  
で普段と同じように与えた。きちんと離乳できたし、現在はバランスのとれた身体です。

不安内容：断乳やフォローアップミルクについて保健婦によって全く違っていた。

解消方法：友人と情報交換した。

不安内容：歯科健診の際、歯茎が悪くなっていると、叱られました。

解消方法：友人に聞いたり、本を読んだりした。

不安内容：真面目に育児の悩みを相談しているのに「つまらない事を聞くな。」というような態度をとる人がいる。かえって自信をなくしてしまう。対応が悪い。物事を決めつけて言う。本当の話。

解消方法：解消していない。注意して欲しい。

不安内容：歯科健診のとき、ゆびしゃぶりをしているわが子を見て、ばかにしたように欲求不満じゃないのかと言われた。

解消方法：必要以上に保健所に行きたくない。

#### <1歳6か月児病院>

不安内容：時間外救急で行ったら、医者にののしられた。母親失格と同伴した父親に、

言った。  
解決方法：今でもうらんでいる。

不安内容：説明不足。はっきり言わない。経験不足で母親を不安にさせる。

解決方法：専門の先生にみてもらった。

不安内容：アレルギー体質もしくは、小児喘息に移行する可能性があると言われた。

解消方法：何もしていない。神経質にならない。

不安内容：かかりつけがこんでいたので、近所の内科へ行ったら「おたふく」と診断され、ふにおちなくかかりつけに診察してもらったら、風邪でリンパ腺が腫れてるだけだった。いいかげん。

解消方法：かかりつけに行く。

不安内容：熱が出て、発疹が出たが、突発でも麻疹でもないと言われ、何だったのか。  
また、先生によって言う事が違う。

解消方法：友人に聞き安心。熱や少々の風邪では病院に行かない。

<3歳1か月児保健所>

不安内容：胸に突き刺さる言葉を覚えています。  
何度かあり、もう忘れたが、その時はショックだった。だめな母親と言われたのも同じことでしたから。

解消方法：育児雑誌で同じ体験談を見たときは、ほっとした。ただそれだけです。

不安内容：言葉が遅いと言われた時。

解消方法：心理相談の先生と相談した。

不安内容：個々の問題は忘れたが、保健婦さんは比較的熱心のあまり、指導点が厳しいような気がしました。

解消方法：気にしない。

不安内容：重い病気を持った子どもを妊娠していた時、電話相談しても、親身な回答が得られなかった。

解消方法：他人にも相談できず苦しんだ。

不安内容：態度が横柄で、例えばスイミングにやってくるのがわかると「今から水泳選手にするのか。」と言われ、「運動が足りてないようだから行かせた。」と言うと「それなら、別に行かせることない。」と頭ごなしに言う。下の娘の言葉の発達が気になった時も笑いとはされ不快だった。

解消方法：最低の健診だけ利用しようと思う。

不安内容：言葉が遅いので障害児ではないかと言われた。母親の努力が足りない等言われた。

<3歳1か月児病院>

不安内容：医者（病院）によって違うことある。  
解消方法：なし。混乱したまま。

不安内容：アレルギーで医者によって見解が違い除去食の指導が違った。

解消方法：結局自分で選ぶしかなかった。

不安内容：この月齢なら、これくらい出来るはずみたいな言い方をされた。

解消方法：気にしない。

#### IV. 考察

1. 利用して役に立った理由は利用内容により違いがある。

1) 保健所の利用について

①乳幼児健診では不安が解決した（5人）、接遇が良かった（2）等の理由もあるが、無料で通知がきて、予防接種をしてくれ、発育の状況が判るとの受け身の理由が多い。

②母親学級については、不安が解消された（4人）と記入した母親から、同じ悩みについて情報交換し友人ができた（11人）等、積極的な関わりがみられる。これは1回25人前後、4回シリーズで学級が運営され、グループ作りをすすめている結果である。

③新生児訪問については、初めての新生児で1か月前後と不安定な時、家庭で直接1対1で話ができる（10人）ことが主たる理由である。

2) 病院（診療所）の利用について

①子どもの診察や治療等では、病気の時に診察してもらって安心（11人）が一番である。

②子どもの健診については、検診を受け、順調に育っていることを確かめ安心し、又そのつど心配事を相談（9人）が主で、保健所の健診に比較して、記載事項からみると、定期的に健診を受け、満足度が高い。

又、保健所利用者の1人が「もう少し時間のゆとりがあればいいなと思う」と記載している。今後の集団健診の問題点といえる。

2. 利用して不安になった理由は保健所では、健診や育児相談での集団や個別での育児情報や助言が、マニュアルどおり、断定的・命令的、母親の子育ての方法を否定する言葉、指導時の説明不足が傾向としてみられた。

また病院は、病状に不安を持って受診している親に、説明不足や、断定的・命令的応答に不安が解消されず、病院を換える行動をとっている傾向がみられた。

共に、何気なく言う、言葉や表情が、相手に想像以上に重く影響していることがわかった。

育児は本来、多様で柔軟性に富むものであるが「よい育児法」を断定的に指導、指示する指導者も多い。指導者によってくいちがった情報が氾濫し戸惑うのが、例からも伺える。指導者側も無意識に母親を評価し、母親に指導者が「よい」と考える育児をさせることを専門職としての使命と錯覚していることはないだろうか。また、説明を求められたときのインフォームドコンセント技術は母親達の納得を得るものとなっているだろうか。

また問題状況に対して、指導者が対策を指示するのでなく、母親自身の問題解決能力を高め、生活実態に即した柔軟な指導の改善が一層求められていることが把握できた。

情報提供後のフォローの充実と接遇改善が分析結果より明らかになった。

## V. まとめ

板橋区回収分のアンケートで、保健所や病院（診療所）からの情報やサービスに対して、役に立ったか、逆に不安を持ったかを分析した。

初めての妊娠、出産、母親になる過程で保健所の母親学級、新生児訪問が大きな役割を持っていることが判った。

又、病院（診療所）は、診療が主体であるが、母子にとっては、健診も重要な役割を果たしている。

一方、接する人の発言内容や接遇の問題で、逆に不安になる例もみられた。

今後この点を改善し、安心して妊娠、出産、育児ができる環境を整えていきたい。

年階層別出生順位

図1

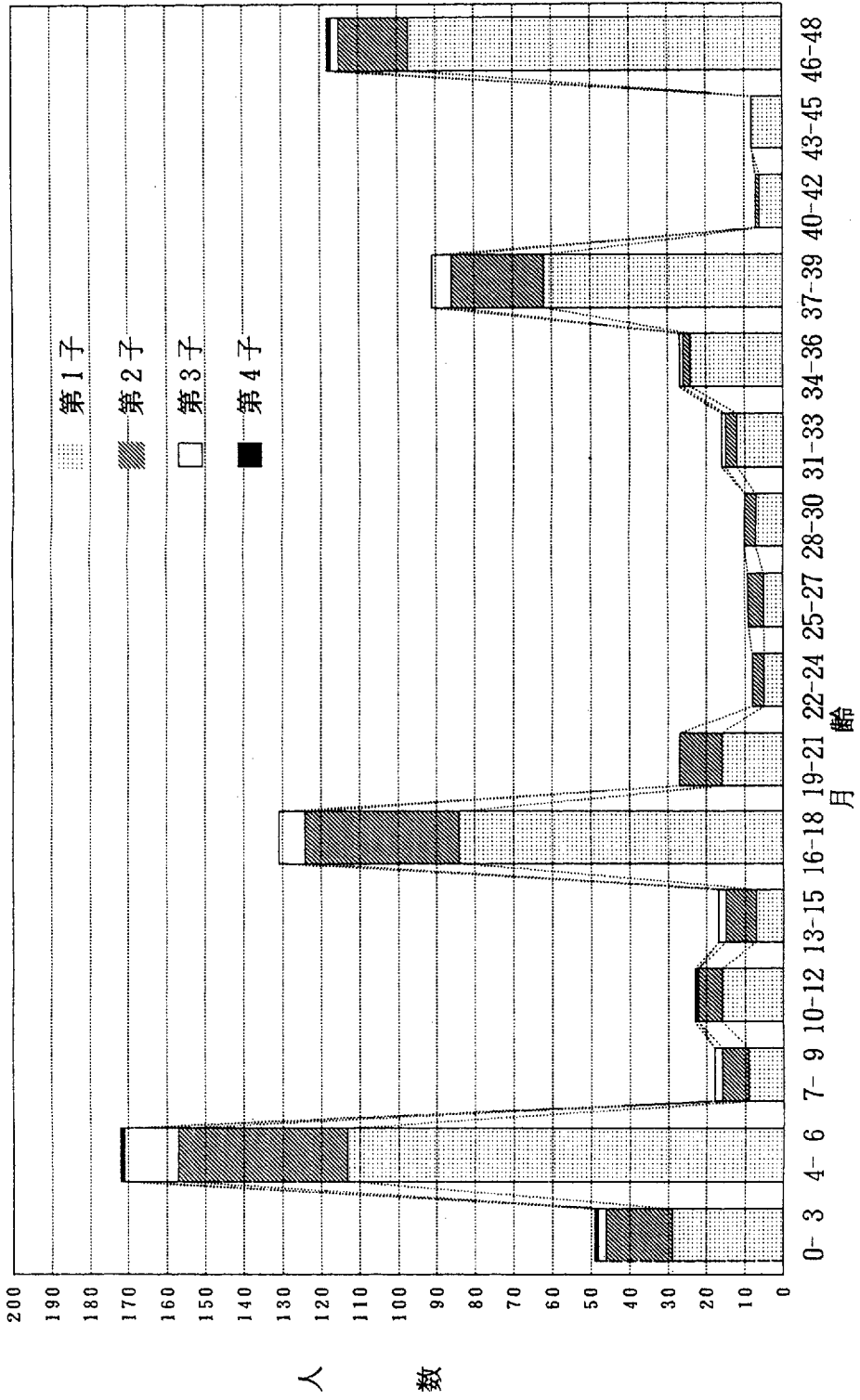


表1 保健所の利用内容で役に立ったベスト1

		4か月	1歳半	3歳1か月	その他	計
1	乳幼児健診	28	16	12	43	99
2	母親学級	20	10	13	44	87
3	新生児訪問	16	8	6	32	62
4	1歳半歯科健診	—	11	9	17	37
5	育児相談	1	4	1	11	17
6	その他	8	14	4	45	71
		73	63	45	192	373

表2 平成5年度 板橋区保健所・相談所事業別利用者数

事業		利用者数	
乳幼児健診	4カ月健診	4,313	計8,074
	3歳児 "	3,761	
母親学級		904	
新生児訪問		1,238	
1歳半歯科健診		3,782	
育児相談		3,943※	

保健婦による訪問 332  
訪問指導員による 906

※：延べ数、他は実数

表3 病院（診療所）の利用内容で役立ったベスト1

		4か月	1歳半	3歳1か月	その他	計
1	子どもの健診や治療	22	16	11	57	106
2	子どもの健診	12	19	8	32	71
3	時間外救急治療	5	10	11	40	66
4	あなた自身の診察や治療	8	1	2	10	21
5	あなた自身の健診	6	3	4	5	18
6	その他	7	5	4	20	36
		60	54	40	164	318



表4 不安になった該当児月齢数

月 齢	3M	4M	5M	6M	8M	11M	1.1	1.1	1.2	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.5	2.7	2.9	2.11	3.3.1	
保健所	3	11	1	0	1	0	0	0	0	2	15	1	1	0	1	1	1	2	1	1	10
病 院	1	10	1	2	2	1	1	1	3	4	11	1	1	1	0	0	1	0	0	1	6

月 齢	3.2	3.3	3.6	4.6	4.10	5.2	5.10	6.9	総 数
保健所	5	0	1	1	1	1	1	1	63人 (12.6%)
病 院	2	1	1	2	0	1	0	0	55人 (11.1%)

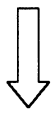
有効回収数 501人中の該当者数

表5 不安の具体的内容

不安の具体的内容	4 ヵ月		1.6M		3.1M	
	保健所	病院	保健所	病院	保健所	病院
<b>接 遇</b>						
・保健婦・栄養士等の発言で ( 厳しい、軽くあしらわれた、不親切						
・先生の発言内容で ( 驚かされた、叱られた等)	7	10	11	9	9	3
・専門家によって指導内容が異なる						
・不安げな表情で言われた、うやむや						
・指導内容が厳しい、理想的						
他の子と較べて自分の子と違うので	2	2	1	1	1	1
授乳・断乳	1	0	0	1	0	0
食事のしつけ・食事について	0	0	1	0	0	0
予防接種について	0	0	1	0	0	1
アレルギー・アトピーについて	1	1	1	0	0	1
総 数 (延数)	11	13	15	11	10	6



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



【要約】今日、母親達を取り巻く育児情報の氾濫は、少子化・核家族化という育児環境条件の中で大きな影響力を母親達に及ぼしている。地域で母子保健に携わる育児情報発信源としての、保健所・病院からの育児情報がどのように母親達に受け止められているか、その実態を把握するために、総合質問紙調査を実施した中より結果を分析した。今回は、東京都板橋区の回収分で保健所と病院の利用して役にたった内容と理由、与えられた情報で不安になった経験とその理由、また不安解消のためどのようなことをしたかを分析した。